

## 《教育長メッセージ 第34号》



『ひとりひとりを大切にすること2』

第32号で、このことについての私の基本的な考え方について述べさせていただきました。

今回は、「ひとりひとりを大切にすること」のための具体的な支援について、自分の考えを説明します。

学級を担任する教員は、一年間の学級での学習や生活にかかわる教育計画を「学級経営案」として作成し、5月末ごろに校長に提出します。

もちろん、新学期が始まる4月当初から、学級づくりの基本的な方針を持ち、それを達成するための具体的な手立てを講じていくのですが、自分の目で、子どもひとりひとりの様子を観察し、学級としての子どもの実態を把握する必要があり、その実態をもとに計画を立てることから5月末ごろの提出となるのです。

多くの学校では、その間に、家庭調査票の提出や家庭訪問があり、教員は家庭の状況や保護者の思いを把握して、それらも含めて「学級経営案」を作成します。

私が最後に担任をしたのは、20年ほど前ですが、私は、学習と生活に分けて、4月当初から、学級の名簿にそれぞれのプラス面とマイナス面の状況をメモして、ひとりひとりの実態把握をしました。

一ヶ月も観察し、ともに過ごす中、ひとりひとりの様子がよくわかります。そこで、一年間で伸ばしたい力と改善したい力を私なりに決めて、指導や支援にあたります。

もちろん、学級集団としての目標やその学習で身につける目標を設定して、指導・支援を行うのですが、常にひとりひとりの状況に合わせて行うように心がけていました。

今ふり返って、反省することは、私がひとりひとりを観察して決めた、一年間で伸ばしたい力と改善したい力を保護者に説明して、理解を得て、共通理解のもと協力して子どもをかかわることをしていれば、子どもはより力を伸ばすことができたろうなということです。

私は、子どもの今と将来のしあわせのために3年計画の「えびなっ子しあわせプラン」策定し、今年度が取組の2年目になります。その中で、今後、「ひとりひとりを大切にすることの実践」に向けて、新たな取組ができないかと思案しているところです。

私の最終的な教育への思いは、海老名市の教育が、ひとりひとりの子ども

もを真に大切にしている実践していると評価されるような教育施策を展開することです。

次回は、「田んぼ」の話をしてみたいと思います。